

課題番号 :28指5

研究課題名 :日本の医療機関における、安全・安心な外国人診療環境の整備のための研究

主任研究者名 :大曲 貴夫

分担研究者名 :大曲 貴夫

キーワード :国際診療、外国人

研究成果 :

① 外国人診療に関する講習会の開催

初年度の2016年度は1)医療通訳研修会、2)医療コーディネーター研修、3)外国人医療実践講座を開催した。1)医療通訳研修会では厚生労働省科学研究補助金の成果として作成されたカリキュラムをベースとし、医療通訳養成のための研修を行った。本研修は、日本医療教育財団が主催する、医療通訳の試験の受験資格として認定されている。2017年度には英語中国語以外のベトナム語/ネパール語等の枠を拡充して開催する予定である。2)医療コーディネーター研修は、外国人患者に最適な医療を提供するためのコーディネーターを養成するための研修である。講義、ケーススタディ、弁護士による特別講義で構成し、3回で合計86名が2日間の研修を修了した。この研修会の評価から、研修ニーズが、①基本研修、②JMIP受審準備、③医療ツーリズム受け入れの3つであることが判明した。今後は医療政策シンクタンクであるJIGHに運営・企画を委託し、多施設が参加する研修会とすることになった。3)外国人医療実践講座は、院内・地域の医療機関の医療者、医学生・看護学性等を対象に、外国人患者の診療やケアに役立つ実践的な情報を学ぶ企画である。年4-5回開催している。多職種が参加できるようなテーマを定め、当事者からの意見を聞く機会としている。次年度は薬剤師やソーシャルワーカーが参加できるような講座を計画している。

② 外国人患者受け入れ体制整備のための資料の参加型開発

院内の多職種が同じように外国人患者の支援を行えるように、マニュアル・アルゴリズム・多言語説明資料の作成に取り組んだ。院内および国際医療協力局のスタッフがもつ豊富な経験・ネットワークを活かし、優先度の高い言語から翻訳を進めている。作成された資料は当研究の成果物として国際診療部ウェブサイト順次掲載予定である。

③ 外国人診療における遠隔診療・遠隔相談の検討

遠隔医療通訳における課題の検討、タブレット通訳評価研究への協力、遠隔セカンドオピニオンの実現可能性の調査を行った。次年度にパイロットとして複数の事例で検証を行う予定である。

④ 外国人診療に関するE-learningの開発

日常的に遭遇しやすい臨床状況における英語を用いた診療における一般的な表現について動画を作成した。次年度は、外国人患者対応の知見をより幅広い層と共有できるよう、e-learning等の開発につなげていく予定である。

⑤ 外国人診療に関する海外視察

看護師と栄養士をオーストラリアのメルボルンに派遣し、医療通訳の養成・マネジメント、栄養の支援等について調査した。帰国後は報告会を行い、地域の医療関係者・院内スタッフと共有した。次年度は同じく、多文化・多言語の先進地域であるカナダでの実態調査を行う予定である。

Subject No. : 28-5

Title : Research project for the attainment of Safe and Secure Healthcare Environment for patients from abroad in Japanese Medical Institutions

Researchers : Norio Ohmagari

Key word : patients from abroad, International Healthcare

Abstract :

1. Development of training sessions on medical care for patients from other countries

In fiscal 2016 of the first year, 1) Medical Interpretation Workshop, 2) Medical Coordinator Training, and 3) Foreign Medical Practice Course have been developed. 1) Based on the curriculum created as a result of the scientific research fund of the Ministry of Health, Labor and Welfare, we conducted training for medical interpreter. This training course is certified as an examination for medical interpreting examinations hosted by the Japan Medical Education Foundation. In FY 2017, we are planning to expand the frame to Vietnamese / Nepali language other than English Chinese language. 2) Medical Coordinator Training is a training program to train coordinators to provide optimal medical care for foreign patients. This course contains lectures, case studies, and a special lecture by a lawyer and 86 students completed 2 days of training. Based on the evaluation of this workshop, it turned out that the trainee needs (1) basic training, (2) preparation for JMIP acceptance, and (3) acceptance of medical tourism. In the future, we plan to succeed the operation and planning to JIGH, which is a medical policy think tank, to have a multicultural participation workshop. 3) Foreign medical practice course is a seminar to learn practical information useful for medical care and care of foreign patients. It is held 4-5 times a year. We set a theme that allows participants with various background can participate and have opportunities to hear opinions from the parties. In the next fiscal year, we are planning courses where pharmacists and social workers can participate.

2. Development of materials for improving the healthcare system for foreign patients

We worked on the preparation of manuals, algorithms and multilingual explanation materials so that multi-occupation in the hospital can support foreign patients in the same way. We are promoting translation from languages with high priority by making full use of the rich experience and network of staff of the hospital and international medical cooperation bureau. Materials created will be posted on the website of the International Healthcare Center at National Center for Global Health and Medicine Hospital.

3. Development of remote medical consultation and remote consultation for foreign patients

We studied tasks in telemedicine interpretation, cooperated with tablet interpreting

evaluation research, and conducted feasibility study on distant second opinion. In the next fiscal year we will conduct verification as multiple pilots in case.

4. Development of E-learning on medical care for patients from abroad

We made a video about general expressions in medical practice using English in clinical situations that are easy to encounter on a daily basis. In the next fiscal year, we plan to lead to the development of e-learning etc. so that we can share knowledge on foreign patients with a wider range of people.

5. Overseas study tour on medical care for patients from abroad

We dispatched nurses and nutritionists to Melbourne, Australia, and investigated case studies on hearing, training and management of medical interpreters, support for nutrition, etc. After returning to Japan, we held a reporting meeting and shared it with medical staff in the area and in-hospital staff. In the next fiscal year we will also conduct a field survey in Canada, which is an advanced area of multicultural and multilingual.

平成28年度 国際医療研究開発費「日本の医療機関における、安全・安心な外国人診療環境の整備のための研究」

① 外国人診療に関する講習会の開催

1) 医療通訳研修会:

厚生労働省科学研究補助金の成果として作成されたカリキュラムをベースとした、医療通訳養成のための研修

日本医療教育財団が主催する、医療通訳の試験の受験資格として認定

2017年度には英語中国語以外のベトナム語／ネパール語等の枠を拡充して開催する予定

2) 医療コーディネーター研修:

外国人患者に最適な医療を提供するためのコーディネーターを養成するための研修

講義、ケーススタディ、弁護士による特別講義で構成し、3回で合計86名が2日間の研修を修了

研修ニーズが、①基本研修、②JMIP受審準備、③医療ツーリズム受け入れの3つであることが判明

今後は医療政策シンクタンクであるJIGHに運営・企画を委託し、多施設が参加する研修会へ

3) 外国人医療実践講座:

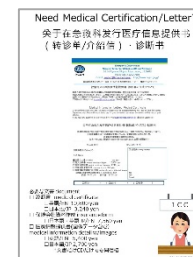
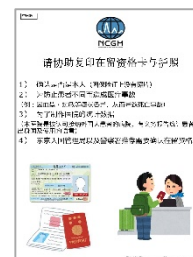
外国人患者の診療やケアに役立つ実践的な情報を学ぶ企画

多職種が参加できるようなテーマを定め、当事者からの意見を聞く機会としている

次年度は薬剤師やソーシャルワーカーが参加できるような講座を計画

② 外国人患者受け入れ体制整備のための資料の参加型開発

- ・ 院内の多職種が同じように外国人患者の支援を行えるようマニュアル・アルゴリズム・多言語説明資料を作成
- ・ 院内および国際医療協力局のスタッフがもつ豊富な経験・ネットワークを活かし、優先度の高い言語から翻訳を進めている。
- ・ 作成された資料は国際診療部ウェブサイト順次掲載予定



平成28年度 国際医療研究開発費「日本の医療機関における、安全・安心な外国人診療環境の整備のための研究」

③ 外国人診療における遠隔診療・遠隔相談の検討

課題の検討、タブレット通訳評価研究への協力、遠隔セカンドオピニオンについてのフィージビリティの検討として研究調査を行った。次年度にパイロットとして複数の事例で検証を行う予定。

④ 外国人診療に関するE-learningの開発

日常的に遭遇しやすい臨床状況における英語を用いた診療における一般的な表現について動画を作成
次年度は、外国人患者対応の知見をより幅広い層と共有できるよう、e-learning等の開発につなげていく予定

⑤ 外国人診療に関する海外視察

看護師と栄養士をオーストラリアのメルボルンに派遣し、ヒアリング、医療通訳の養成・マネジメント、栄養の支援等についての取り組み事例を調査した。

帰国後は報告会を行い、地域の医療関係者・院内スタッフと共有した。

次年度は同じく、多文化・多言語の先進地域であるカナダでの実態調査を行う予定である。

英語での外国人診療

これまでの成果
外国人診療における障壁の一つにコミュニケーションの問題がある。
外国人診療の際に最も必要とされる言語の一つに英語があり、
日常的に遭遇しやすい臨床状況（発熱、腹痛、予防接種、処方希望、HIV検査後予防）
における英語を用いた診療における一般的な表現についての動画を作成した。
これらの動画はe-learningとして全国の医療従事者に利用可能となる予定である。



今後の予定
英文診断書の書き方についての動画を作成する予定である。
また、入院診療計画書、英文診断書、同意書など
日常診療に用いる頻度の高い文書を、改良可能な形にしてインタラクティブ上から
ダウンロードできるようにウェブページを作成予定である。



課題番号 : 28 指 5
研究課題名 : 日本の医療機関における、安全・安心な外国人診療環境の整備のための研究
主任研究者名 : 大曲 貴夫
分担研究者名 : 忽那賢志
キーワード : 国際診療、外国人

4) 外国人診療を学べる e-learning コンテンツ開発のためのパイロット講義の実施と評価

【本研究の目的】

近年、外国人旅行者が増加する中で医療機関において外国人を診療する機会が増えている。一方で、外国人診療について学ぶ機会は大学や卒後教育において十分ではなく、そのノウハウに関するリソースは不足している。

本研究は、国内の医療機関が外国人診療をする上で役に立つと考えられるリソースをインターネットを介して提供することの有効性を評価するものである。

【これまでの成果】

外国人診療における障壁の一つにコミュニケーションの問題がある。外国人診療の際に最も必要とされる言語の一つに英語があり、日常的に遭遇しやすい臨床状況（発熱、腹痛、予防接種、処方希望、HIV 曝露後予防）における英語を用いた診療における一般的な表現についての動画を作成した。

これらの動画は e-learning として全国の医療従事者に利用可能となる予定である。

【今後の予定】

保険会社などに提出するための英文診断書の書き方のニーズは NCGM、全国の医療機関で高く、英文診断書の書き方について解説した動画を作成する予定である。

また、同様に入院診療計画書、英文診断書、中心静脈カテーテル挿入前の同意書、術前同意書など日常診療に用いる頻度の高い文書を各医療機関ごとに揃えることはリソースの限られた医療機関や、外国人診療の機会が多くない医療機関では困難である。本研究では、これらの医療機関を支援するために、日常診療で使用される頻度の高い文書を、各医療機関が改変可能な形にしてインターネット上からダウンロードできるようなウェブページを作成予定である。

課題番号 :28 指 5

研究課題名 :日本の医療機関における、安全・安心な外国人診療環境の整備のための研究

主任研究者名 :大曲 貴夫

分担研究者名 :堀成美

キーワード :国際診療、外国人

1)外国人患者受け入れ体制整備のための「医療通訳・医療コーディネーター養成研修」パイロットプログラムの開発と評価

【本研究の目的】日本では研修プログラムや資格制度が未整備の医療通訳・コーディネーターについて、現場のニーズにもとづいた研修プログラム・モデルを開発し、他の地域・医療機関でも成果が活用できるようにする。

【これまでの成果と今後の予定】パイロットの研修を1クールずつ実施炭。今後は外部専門家とともに検討後、普及モデル研修を開発し、他の医療機関・地域・団体とともに展開予定。

2)地域支援のための 外国人医療実践講座 開発とニーズの評価

【本研究の目的】外国人患者の入院・退院事例が多い当院では医療機関・スタッフとしての経験知が高まっている。患者の緊急対応や長期的な療養支援のためには地域の医療機関との連携が必要であり、またノウハウを共有することにより、地域・日本の医療全体の安全や安心レベルが向上できるようにする。

【これまでの成果と今後の予定】院内スタッフ・参加者が困っていること・関心を持っていることについてヒアリングを行い、多部門・多職種、地域の医療者も参加できる形式の勉強会を開催。これまでに栄養士・看護師・支払い担当者にフォーカスをした研修会を実施。今後は、薬剤師、MSWの課題にフォーカスをした講座を開発する。

3)厚生労働省「外国人患者受け入れ環境整備事業」のモデル拠点病院、日本医療教育財団JMIP 認証を受けた医療機関等の調査や学会参加を通じ、外国人患者受け入れ課題検討のための情報収集

【本研究の目的】他の医療機関・他の国の外国人医療取り組み状況から学び、より安全・安心な医療を提供するためのリソースやコンテンツ開発につなげる。

【これまでの成果と今後の予定】日本渡航医学会、国際看護研究会等に参加、またオーストラリアで先進的な取り組みを調査した。次年度も国内医療機関の訪問、学会参加、海外の先進的な地域の取り組みを調査予定。

研究発表及び特許取得報告について

課題番号： 28指5

研究課題名：

主任研究者名： 大曲 貴夫

論文発表

論文タイトル	著者	掲載誌	掲載号	年
外国人患者受け入れ環境整備事業拠点病院で働く看護師の外国人患者対応経験と課題の検討	二見 茜, 堀 成美	日本渡航医学会誌)9巻1号 Page12-15	2016年

学会発表

タイトル	発表者	学会名	場所	年月
外国人患者受け入れ環境整備事業拠点病院におけるインバウンド医療問い合わせの現状と課題	二見 茜, 小山内 泰代, 堀 成美, 忽那 賢志, 金川 修造, 大曲 貴夫	日本渡航医学会	岡山	2016年7月
外国人患者受け入れ環境整備事業拠点病院における国際診療部開設1年後の評価と課題	二見 茜, 堀 成美, 小山内 泰代, 忽那 賢志, 金川 修造, 大曲 貴夫	国立病院総合医学会	沖縄	2016年11月

その他発表(雑誌、テレビ、ラジオ等)

タイトル	発表者	発表先	場所	年月日

特許取得状況について ※出願申請中のものは()記載のこと。

発明名称	登録番号	特許権者(申請者) (共願は全記載)	登録日(申請日)	出願国

※該当がない項目の欄には「該当なし」と記載のこと。

※主任研究者が班全員分の内容を記載のこと